

大津島(平成24年12月1日現在) 人口 370人(男159人 女211人) 高齢化率 70.5%

謹んで、新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、地域コミュニティ推進につきまして、格別のご支援ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。昨今の当地域におきましては、人口減少、少子高齢化が進むなか、各種団体、島おこし隊員の活力を得ながら、安心して暮らせる島の実現を目指して頑張っているところです。

島おこし隊員の任期も残り1年3カ月となりました。最近では、少しずつ彼らの活動の成果も目に見える様になってきました。潮流の発行、里の案内人制度、島の出身者へ向けたふるさと便りの発行など、多岐にわたります。4月には、本浦学校跡地に完成する体験交流施設「大津島海の郷」ができます。この施設がこれからの島に、どんな影響をもたらすのか楽しみなどところです。

今後も大津島ならではの豊かな資源を生かし、住民の活躍の場や、経済循環を創出するなど、活力ある島の実現を目指し、地域コミュニティ再生強化を図っていききたいと思います。そして島内、島外の団体、出身者などと力を合わせ、「住みたくなる島、また住んで良かった島」を目指して参りたいと思いますので、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



大津島地区コミュニティ推進協議会 会長 安達 壽富



お節料理 定番三品



伊達巻...オーブンで失敗知らず!
材料...卵4個 はんぺん100g
みりん大2 しょうゆ小1/2
だし大2

① 全ての材料をミキサーにかけドロドロにします。
 ② 20センチの型にオーブンシートを敷きます。
 ①を流し入れ 200度のオーブンで10分焼きます。
 暖かいうちに、巻き素に巻いて出来上がり。

春巻き風...カブの酢の物

① 酢漬けにしたカブの中に入れるものは、お好きな物で。小皿に一品。*今回は、柿が入っています。

田作り...くっつかないおせちごまめ
材料 ごまめ 1袋50g 白ごま小1
酒大1 スライスアーモンド少々
タレ みりん 大1 しょうゆ大1
砂糖 大3 水大3

- ① ごまめを焦がさない様にフライパンで、ポキンとおれるくらいゆっくり煎る。
- ② たれの分量を全部合わせて、フライパンに入れ、泡がブツブツなるまでゆすりながら煮詰める。(かき混ぜない)
- ③ ②に①を入れ、手早くからめ、火から降ろして、酒をふりかけ混ぜる。薄くサラダ油を塗ったパットにごまめが重ならない様に広げ、切りゴマ、スライスアーモンドなどをふりかけ冷やします。

“島の秋祭り”

大津島では、10月6日~10月28日に各集落で秋祭りが行われました。今年も、集落それぞれの色が出た内容でした。



刈尾

「ええまいの一」神楽舞に順々に抱きつき、祭りをまだ終わらせたくないという気持ちが伝わってきました。



天浦

雨が心配されたのですが、ご利益なのか、お祭りの間はずっと晴れていました。



馬島・柳浦

葛原神社、10月26日、今年もために火祭りで厄を払って 新年へ。



近江

近江の社に響く太鼓の音は、深く、長い歴史を感じました。



瀬戸浜

20年ぶりに眠っていたお神輿の復活。瀬戸浜地区のパワーが溢れました。



本浦

今年の「長持唄」は、派手だった。来年は更に派手に、面白いこう。

清々しい新年を迎え身も心も引き締まります。木枯らしに耐え、しっかりと息づいている松南天。難を転じて幸福な一年となりますように。

青空に雲一つなし
玉の春

松南天

来る年はめでたい意味に通じる海老の様に健康で、長寿にあやかりたいものです。

伊勢海老

季節の俳画
安達照子

海 の街道・三 【阿倍仲麻呂】

お正月にふさわしく、百人一首の中からひとつ。「天の原 ふりさけみれば 春日なる 三笠の山に いでし月かも」

阿倍仲麻呂が唐の長安で詠んだ望郷の歌である。西暦七一七年、一九歳の仲麻呂は遣唐使船に乗り、長安へ留学する。太学で学び難関で知られた科擧に合格し、楊貴妃で有名な唐の玄宗に仕えて重用された。唐朝諸官を歴任して、ベトナム総督を務めるなど高官に上り、最後は大都督(従二品)を贈られている。一方、李白や王維などの詩人との親交も深く、冒頭の歌は、彼らとの宴席で詠んだと言われている。

五四歳のとき帰国の途につくが、暴風で南方に流されて果たせず、長安に戻る。彼が遭難したと聞いた李白は、「名月不帰沈碧海」と詠んでその死を悼んだ。阿倍仲麻呂は、再び海の街道を帰ってくることはなく、長安で七三歳の生涯を閉じた。

西暦六三〇年から一五四七年まで、遣隋使五回、遣唐使二十回、遣明使十九回が、日本国の正使として海を渡った。写真のような船が、通常は四隻編成で大津島に沿う海の街道を四十四往復したのである。

八〇四年の第一八次遣唐使船には、真言宗の開祖の空海三十一歳と、天台宗の開祖の最澄三八歳の二人が、留学僧としてともに乗船している。

上海万博に際し復元された遣唐使船。日本から上海まで実際に航行。
文=末兼 正純

**本当に元気！？
…晩秋の一時のつぶやき**



文＝岡崎 求平
(大津島診療所)

島に来て早一年八ヶ月になろうとしています。
歯医者に行くにも二週間に一回、六時過ぎの医師会の勉強会も泊まり込み。交通の不便さの上ない、活動的の生活に多大な制限がかかっています。この頃は、
風邪には、暖かさとの喉の暮らすことが常になってお潤い、寝る前の生姜糖湯のり、何かあれば「徳山」が常一杯。膝痛には温湿布(湿布)識になっていくようです。医の上からホッカイロ)などの初期処置も昔のままのようです。
累計一千万部を超えたベストセラーといわれる、戦前の有名な家庭医学書・筑方が多く、中央病院など患者田先生の「赤本」を、今一さんの紹介・照会にも返事が度読み返しているところなく無視されているようです。
六〇年近く前、祖母が腹部腫瘍で手術ということになり、手術前の浣腸で便秘と分ったことがありました。似たような状況と思えました。
立ち寄りの下さ。

先日も島の女性が、徳山で尿道留置力テーテルを装着されましたが、排尿機能に關しての検査の記録もなく、当方で力テーテルの變更と抜去を試みたところ、今は自尿で快適な生活をしていきます。
まあ愚痴を言っても始まりません。もう暫く島民の皆さんのために、診療とご自身の防衛のための策を考えていきたいと思っ

徳山は徳山で、医者は偉いんだと思いついていよう前の方が多い、中央病院など患者田先生の「赤本」を、今一さんの紹介・照会にも返事が度読み返しているところなく無視されているようです。
六〇年近く前、祖母が腹部腫瘍で手術ということになり、手術前の浣腸で便秘と分ったことがありました。似たような状況と思えました。
立ち寄りの下さ。

六〇年近く前、祖母が腹部腫瘍で手術ということになり、手術前の浣腸で便秘と分ったことがありました。似たような状況と思えました。
立ち寄りの下さ。

知っちょるかね



文＝松本 千恵子

出漁していた男達と、留守宅を守る女達。互いの無事を確認できるのは、男が漁からもどって、お互いに元気な顔を見た時だけであ

馬島の東の波止の話。先人達が、船の大型化と台風を建築費に当てて作った古い波止。基礎には、豊後から何度も運んだ肥松が使われた。なだらかで美しい波止だった。しかしそれも、時代の流れで今の波止に造り替えられた。その折り、古い波止の石垣の中から、古い時代から割合新しい時代のものまで含まれた小銭の塊が現れた。作業をしていた人達もなぜこんな所に

あるいは、古い波止を造った時、島民の希望や誇りの平安を祈って、それぞれが入れたお金であるとか、今ではその時代の人に聞く事もできなくなったので、はつきりした事は知る術もなくなった。
しかし、この願いのこもった小銭は、無下に扱うべきではないと、当時の作業員達の手により、もう一度新しい波止に埋め戻されたのである。
今も東波止の龍神様の足下には、先人達の希望や誇りや、平安を祈る思いが埋まっている。

通信手段のなかった時代、「ガデ」や「てぐり」と呼ばれ、遠くシナ海までも

渡辺 宗彦 (馬島) 年齢 53歳
18歳で島を出て以来、現在も福岡県に住んでいます。今回は、バレー部OBの繋がりです。初めて参加しました。大会も手馴れた感じで進行されていたと思います。また来年も参加します。地域行事の手伝いも前もって日程が分かっていたら、帰るときは、帰って来ようと思います。



大津島ポテトマラソン 島出身者 ボランティアスタッフ インタビュー
文＝大友 翔太

第23回ポテトマラソンでは、36名もの多くの出身者ボランティアの方達の力により、大会全体を盛り上げてくれました。そのうち2名の方にインタビューをしました。



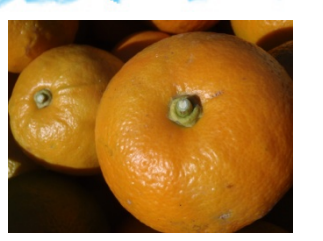
屋野 耕一 (刈尾) 年齢 49歳
島を出てもう31年が経ちました。現在は広島県に住んでいます。今回が2回目の参加でした。ポテトマラソンを通じて、みんなに会えて良かった。また来年も参加します。現在は仕事の関係で、ゴルフソークなど帰省できないので、刈尾の奉仕作業や、秋祭りなど地域の手伝いに度々帰省しています。

島おこし隊員 活動報告

- ・うみかぜ号
12月1日より、うみかぜ号のダイヤが変更されました。1月31日までの2か月間、新たなダイヤで実証運行を行います。島内を自由に移動できる予約制バス(10時～12時/15時～17時)も始めました。皆様ぜひご利用してください。
- ・耕作放棄地対策
本浦地区の耕作放棄地を解消し、12月6日には本浦自治会の皆さんと、耕起して小麦と花の種まきをしました。1月には、麦踏みや泥かけの予定です。ぜひ皆様ご協力をよろしく願います。
- ・ふるさと便りとポテトマラソン出身者ボランティア
皆様「ふるさと便り」にご協力頂きありがとうございます。沢山の出身者の方々に、ランナーやボランティアとして、ポテトマラソンに参加していただきました。大会終了後に【出身者と島おこし隊での意見交換会】を開催しました。「草刈や祭りの準備など事前に連絡があれば帰ってくる」「出身者のつながりを広げたい」「将来は島に帰ってきたい」など大津島への熱い想いを聞かせてくださいました。貴重なご意見をもとに、今後の島づくりを共に築いていきたいと思っ

文＝島おこし隊員
隊員ブログ
<http://i-8996-ozsima.jugem.jp/>

ひろしのつぶやき



文＝屋野 廣志

◆やまびこ号の巡回日
平成25年 1月22日(火) / 2月16日(土)

- 瀬戸浜自治会館 10:40～10:50
- 大津島郵便局前 11:10～11:30
- 馬島巡航待合所 13:00～13:30
- 刈尾巡航待合所 13:50～14:10

大津島地区内の税の申告相談
～事務局からのお知らせ～
日にち 平成25年2月5日(火)
会場 馬島公民館 10:00～12:00 / 大津島支所 13:30～15:30
当日の朝8時30分から各会場にて受付番号の配布を開始します。
ただし、電話での事前予約は行いませんのでご了承ください。
申告に関するお問合せ先は、課税課(TEL22-8273)

小学生の頃、弟と私で一つかない馬の型をした三センチ位の水色の磁器に紐の付いた根付きが、どちらの持ち物とも定まらず、もやいの宝物でした。それをいつも、どちらかが隠し持ち、隠すのも、また見つける事も嬉しかった。ただただ、それだけの事で安心し、それが良かった思い出がある。
子供の頃、春の大潮には家々みんな、大泊の浜、帝(みかど)、黒磯、銭橋(せんばし)、とそれぞれ獲物を目当てに潮干狩りに行った。
当時、大泊には船乗りが多く、伝馬船に七、八人乗せて樺島に行った。獲物は豊富で、石割貝、ミル貝、セト貝、ニシ貝と様々だった。
「今日の獲物はもやいにしようや」という船頭の一声で、多い者少ない者も一つに集め、一度適当に分けた。それから家族の多い者、一人者、多く獲った者等々が、平等になる様、それぞれの分前を個人個人で貰った、渡したりした。
子供の私にも「お前方は兄弟が多いけん」と一人前の分前を貰った。そして、「今日はおらんが隣の大工さん方にもあげてくれ」と大きなセト貝を五、六個簞に入れてくれた。
当時、海の獲物や山の幸(ツワ・ワラビ)など家々の最低必要限度の物は、お互いに分けあった。もやいの心がそこにはあった。子供ながらに、それは暗黙のうちには律する法があったのではな

大津島で見つけた、ヤマノイモに似て非なる植物：【オニドコロ】そっくりなので、うっかり食べてしまった。すると、舌がピリピリしました。調べてみると、魚毒に使用らしい。危うく、命をとられるところでしたよ。
見分けるコツは、葉っぱ。ヤマノイモは一箇所から2枚が出ていて、かたや、オニドコロは、互い違いになっていること。
新年も新発見をしましょう。
ポテトマラソンでは、島民の皆様方にたくさんのご支援ご協力を頂き、誠にありがとうございます。心より感謝いたします。
六郎万淳一

編集後記
大津島で見つけた、ヤマノイモに似て非なる植物：【オニドコロ】そっくりなので、うっかり食べてしまった。すると、舌がピリピリしました。調べてみると、魚毒に使用らしい。危うく、命をとられるところでしたよ。
見分けるコツは、葉っぱ。ヤマノイモは一箇所から2枚が出ていて、かたや、オニドコロは、互い違いになっていること。
新年も新発見をしましょう。
ポテトマラソンでは、島民の皆様方にたくさんのご支援ご協力を頂き、誠にありがとうございます。心より感謝いたします。
六郎万淳一